



新琴似駅前も亜麻でいっぱいになります♪

地域をつなぐ「亜麻」のみち

シリーズ
地域デビューのぞくめ

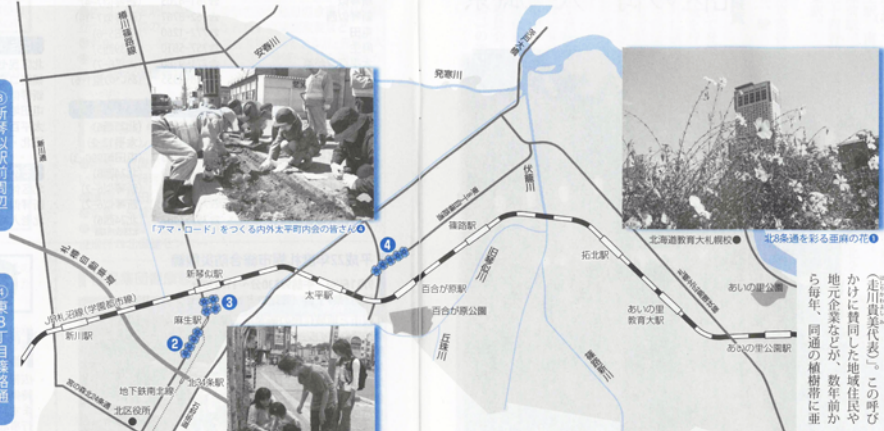
まちづくりやボランティアなどに参加している地域活動の担い手をシリーズで紹介し

北区では、明治から昭和の中ごろまで、現在の麻生町で製麻工場が操業原料となる亜麻の栽培を含め、亜麻産業が栄えていました。

今月は、当時をしのげる亜麻の花でまちを飾ろうと、北区が進める「亜麻のフラワーロード事業」に取り組んでいる地域を紹介いたします。



北の条通を彩る亜麻の花



③ 新琴似駅前周辺

新琴似駅前周辺でも、駅前町内会（西村茂会長）やカサマ麻生（新琴似9の1）の住に加え、北区災害防止協会の（城本浩一）会長、新琴似小学校の児童会、これまでに花植えに合わせ、西村会長は昨年春に植えた亜麻の花が咲くのを楽しみに育てていますよ」と話し、今後は、地元企業の協力を得ながら地域で水やりなどを行います。

④ 東8丁目緑道通

太百台が原地区では、花や緑に開かれたまじい、なまじいようにと、同地域なまちづくり協議会（岩倉啓生）が呼びかけ、地域の通りを花で飾る、花とみどりのまちづくり事業に取り組み、一環として、地域の町内会が東8丁目緑道通に亜麻を植えました。



「アマロード」をつくる内外太平町内会の皆さん



麻生地区で亜麻の種を播く親子



約6千株の亜麻の苗を植えたのは、内外太平町内会（昇正会長）と太百パークタウン町内会（青山幸夫）会長の皆さん。「春先の天候不順で苗が小さく、植えるのに苦労しました。この通りが亜麻の花でまかれるの待ちどおしいですね」と笑顔で話す昇会長。来年の夏には、薄青色の可憐な花が咲き誇ります。

① 北8条通

北8条通周辺に現在の東区には、かつて製麻工場やビール工場など、当時の日本を代表する工場がありました。この歴史をにちなみ、北8条通（東区）に繊維の原料「亜麻」とビールの原料「ホップ」で飾り、地域を活性化しようと呼びかけるのが、市民グループ「A.M.Sポーターズ倶楽部（北川眞直代表）」の呼びかけに賛同した地域住民や地元企業などが、数年前から毎年、同通の植樹帯に並

町名に残る「亜麻」の足跡

明治後期に全盛期を迎え隆盛を続けた亜麻産業も昭和20年代に入ると、原料の高騰や化学繊維進出の影響を受け、ほとんど縮退の憂いを覚えます。昭和32年に帝國製麻株式会社製麻工場が閉鎖、跡地の宅地化が決まると、住民は工場ゆかりの「麻」を町名として後世に残そうと奔走しました。この思いが実を結び、昭和34年4月、麻生町が誕生、現在まで発展を続けています。



昭和15年ころの帝國製麻株式会社製麻工場

② 麻生地区

麻生地区では、まちづくりのありの亜麻を地域のシンボルに位置づけ、メインストリートを飾る活動を進

めています。

麻生駅前町内会（大門隆司会長）が昨年夏に続いて、西5丁目緑道通に約5百株の亜麻や花苗を植えたほか、地域の3世代交流広場（C.アール・エムビル）に集まる「親子が、麻生地区の駐輪場に設置されたラケット」に亜麻の種を植えました。なお、同地区では、商店街が中心となっており、麻生と「食」を結びつけたイベント（次ページ）を毎年開催、地域を盛り上げています。

第7回 あさぶ亜麻そば祭り

日時：9月12日（日） 午前11時～
場所：麻生地区会館（北39西5）

麻生地区では、地名の由来となる「亜麻」を広く知ってもらい、食の祭りに通じて地域を盛り上げようと、麻生商店街振興組合（永吉裕理理事長）を中心に毎年9月の第2日曜日に「あさぶ亜麻そば祭り」を開催しています。当日は、亜麻の種を練りこんだ「亜麻そば」や「亜麻そばまんじゅう」が提供（有料）されるほか、地域住民の歌や踊りなどが披露され、多くの来場者が盛り上がりがあります。

【お問い合わせ】 亜麻そば祭り実行委員会 ☎011-707-9923

「亜麻」と聞いて、その姿が浮かぶ人は少ないかも知れませんが、でも、北区には亜麻が栄えた歴史が確かにあります。

地域の歴史や伝説への興味は、まちへの愛着や誇りにつながります。来年は、みなさんのまちにも「亜麻」のみちをつつてみませんか。